

今日のキーワード 銀行の家計向け「融資スタンス」は緩和的（米国）

米連邦準備制度理事会（FRB）は、四半期ごとに「商銀上級融資担当者調査」を実施しています。これは、商業銀行の融資担当者を対象に、融資の基準や条件、資金需要の動向などをアンケート方式で調査したものです。直近の調査は、国内銀行70行、外国銀行支店22行を対象として、2016年3月29日から4月12日の間に実施されました。

ポイント1

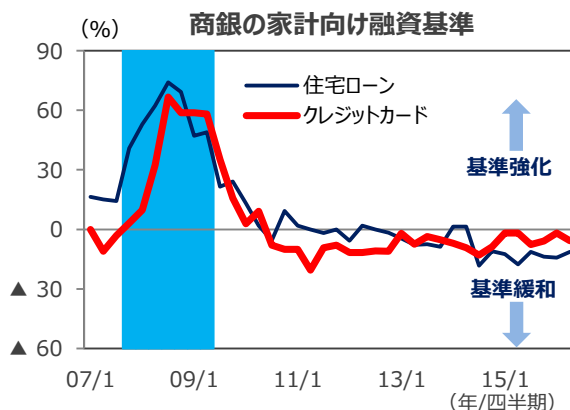
資金需要は大幅に拡大 全体的な融資基準はやや強化

- まず資金需要が「増加」したとの回答比率から「減少」したとの回答比率を引いて、独自に算出した資金需要DIは10.6%でした。前回2016年1月調査時点の▲4.9%から大幅な上昇です。資金需要が急激に増加したことを示すものです。
- 資金需要の増大に伴い、融資基準は僅かながらも強化されました。融資基準を「強化」したとの回答割合から「緩和」したとの割合を引いた融資総合基準DIは前回調査の▲1.3%から+3.1%へ上昇しました。

ポイント2

家計向けの融資基準は緩和 企業向けは強化

- 融資の種類別に見ると、基準が強化されたのは企業向けの融資基準です。例えば、大・中規模企業向けの融資基準DIは前回の+8.2%から+11.6%、小規模企業向けが+4.2%から+5.8%へと、融資基準を「強化」したとの回答比率が増加しています。
- これに対して、家計向けの融資基準DIは、政府系住宅金融会社の保証がついた住宅ローンが▲11.3%、クレジット・カードが▲5.7%、自動車ローンが▲3.3%など、いずれも融資基準を「緩和」したとの回答比率が、「強化」したとの回答比率を上回っています。



（注）データの期間は2007年1-3月期～2016年4～6月期。
融資基準DI＝融資基準「強化」したとの回答比率－「緩和」したとの回答比率。住宅ローンの対象は政府系住宅金融機関保障のローン。網掛は景気後退期。
（出所）FRBのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

緩和的な融資基準は家計支出の拡大を支える見込み

■家計支出を軸に米景気は拡大持続へ

商業銀行の家計向け融資基準DIは、個人消費や住宅販売投資に先行する傾向が認められます。商銀の融資スタンスから判断すると、米国の景気は住宅を支えに拡大基調を維持する見通しです。

■米国株は景気拡大を織り込む展開へ

米国株式市場は、最高値近傍でもみ合う展開となっていますが、今後は家計の支出を支えとした景気の拡大と、企業収益の増加を織り込む展開になると予想されます。

ここも チェック！

2016年5月9日 米国の雇用統計（2016年4月）
2016年4月5日 財務勘定から見る「家計の財務」（米国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。